

備北ナカポツ だより

BIHOKU NAKAPOTSU NEWS
No. 34

令和3年
11月1日発行

●発行所／三次市十日市東三丁目14-1三次市福祉保健センター1F TEL.(0824)63-1896 FAX.(0824)63-1897
一般社団法人備北地域生活支援協会 備北障害者就業・生活支援センター
http://care-net.biz/34/bihoku-c/ E-mail/info@bihokucenter.com

[ナカポツ]は障害者就業・生活支援センターの通称名です。

職場拝見



今回はマクドナルド183三次店を運営する(株)「L' Aubee」を訪問し、原田店長と従業員の池上さんにお話を伺いました。



原田店長

「L' Aubeeの会社概要について教えてください。」

「L' Aubeeとはフランス語で「夜明け」とか「始まり」を意味する言葉です。本社は東広島市で、その周辺を中心に9店のマクドナルドフランチャイズ店を経営しています。183三次店は備北地域唯一のマクドナルド店舗で、遠方からお越し下さるお客様もいらっしゃいます。」

店長は183三次店に赴任されたばかりですが、以前はどちらの店舗にいらっしゃいましたか？

直近は三原の店舗に勤務していま

した。もともとマクドナルドの直営店に入社して、香川県・愛媛県で長く働いていました。

183三次店の障害者の雇用状況について教えてください。

現在5名を雇用しています。

障害者雇用をするきっかけは何でしたか？

店舗の運営にはアルバイト・パート社員の雇用が必須となりますが、地方では人材の確保が難しいことがきっかけとなりました。庄原特別支援学校からの採用をきっかけに、適性に合わせた仕事を任せれば期待するパフォーマンスを発揮してもらえることが分かって徐々に増えていきました。

現在5名の障害者を雇用されていますが、何か配慮されていることはありますか？

まずは本人の適性を見極めることが大切です。そのうえで同じ時間帯に働く従業員にその特性を理解してもらおうように努めました。同じことを何度も説明することもありますが、少しずつ出来ることを増やすことで本人の自信に繋がります。

雇用されている障害者の働きぶりはいかがですか。(戦力になつていますか?)

基本的にはマニュアルに沿って働いてもらいますが、ルーティンワークが得意な人が多いと感じています。コツコツと継続的に努力が出来る人にはマクドナルドの適性基準を満たして接客に取り組む人もいます。また、新人を指導する立場(トレーナー)を経てマネージャーを目指している人もいます。

(次頁へつづく)



店舗全景

(前頁より)

障害者を雇用することのメリットを教えてください。

主にアルバイト・パート社員を雇用しているので、学生さんや主婦などは長期間・長時間・土日に関することが難しい人もいます。障害のある方は地域に密着して長期間働くことや、時間の融通を付けてくださる方が多いので助かっています。

就労を目指している障害のある方へのメッセージをお願いします。

自分自身が自分の特性や適性を考えることが必要かもしれません。体調が悪いときはどうやって早くリハビリできるかを知っておくことも大切だと思います。そのうえで先入観(働くって大変そう、周りに迷惑をかけるのでは?など)を持たずに勇気を持ってチャレンジすることを期待しています。

ナカポツセンターのこれからの関わりについて一言。

採用時のサポートや他の企業の雇用状況などの情報提供をしていただきたいと思っています。気軽にいつでもコミュニケーションを取れる関係であればと思います。

私たち 羽ばたいています!



池上健人さん

入社された経緯をお聞かせください。

もともと飲食関係に就職をしたいと思っていました。庄原特別支援学校のときに2回マクドナルド183三次店で実習を経験して、店の雰囲気がいいなあと感じて就職を決めました。就職して2年6ヶ月になります。

仕事内容を教えてください。

調理全般に携わっています。ひとつずつ仕事を覚えていってハンバーガーを作るすべての工程が出来るようになりました。今は接客にもチャレンジしています。



仕事をするうえで心掛けていることはありますか?

時間(遅刻や欠勤をしない)を守ることは意識しています。約束を守ると周囲が信頼してくれるようになります。

休日や余暇にやっていることはありますか?

今はコロナの影響があるので家でゆっくりしていることが多いですが、以前は友達に会ったり、ドライブしてショッピングセンターに行ったりしていました。

仕事をするうえで、これからの目標を教えてください。

マネージャーの指示に素早く対応できるようになること(朝の準備など)、期待に応えられるようになりたいと思います。自分自身で小さな目標設定をして、それをクリアすることが今は楽しいです。



仕事中の池上さん

この人に 聞きました。

庄原特別支援学校でJSTとして活躍されている三船 充さんにお話を伺いました。



三船 充さん

JSTの意味と仕事の内容を教えてください。

JSTとは、ジョブ・サポート・ティーチャーの略で、主に生徒の実習先と就職先の開拓をしています。

また、関係機関(ハローワーク・相談支援事業所・ナカポツ等)との交渉窓口や情報連携もしています。学内では生徒に就職に関する指導(企業情報や社会人としてのマナー、面接指導等)を行っています。

JSTになったきっかけは何ですか?

妻が特別支援学校の教師をしているので、障害を持った子どもたちの

ことは一般の人よりも理解していたかも知れませんが。もともと人のお世話をするのが好きなので、JSTの仕事は自分に向いていると思えました。JSTになって7年目になります。三原・黒瀬の特別支援学校を経て庄原特別支援学校で3校目になります。

具体的にどうやって仕事を 見つけますか？

実習までの流れを教えてください。
（1年・2年・3年）

まずは生徒を知る（障害特性など）ことから始めます。何がしたいか、何ができるかを考えたり、課題を見つけてそれを解決する方法を生徒と一緒に考えます。そのうえで実習に進んでいきます。

1年生のときの実習目的は、3日間9:00～15:00を基本として働くというところはどこか、学校と違う環境の雰囲気や学習します。

2年生の目的は複数の実習を体験して、自分の方向性を決めることです。実際にどのような仕事に就きたいかを考えます。

3年生は採用を目的とした実習になります。2年生で決めた方向性に従って業種や職種にチャレンジしていきます。

適職に就けるために気をつけて いることは何ですか？

初めて障害者雇用する企業では、経営者や管理部門と現場に障害者雇用の意識に乖離かいりが無いかを気に掛けます。職場の雰囲気やサポート体制（困ったときは相談できるか）など複数のチェックポイントを持ってマッチングしていきます。

何より大切なことは、生徒自身がその会社で働きたいか、頑張りたいか強い気持ちがあるかだと考えています。

コロナの影響はありますか？

緊急事態宣言中は実習が延期や中止になって困りました。2年生の実習機会が減ると、方向性を決める時期に影響が出てきます。

卒業後のサポートは どのように行いますか？

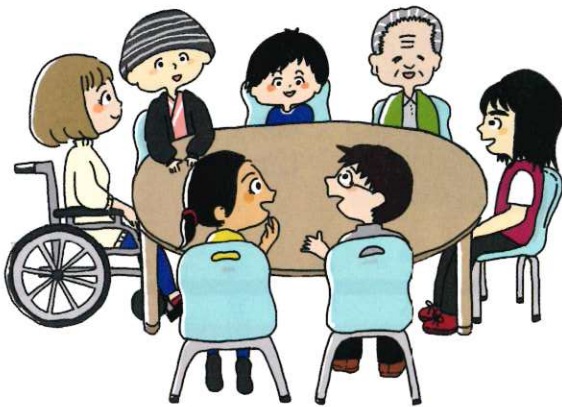
卒業後のサポートは基本的にハローワークとナカポツにお任せすることになります。担任や進路指導の先生から生徒の特性や課題を伝えて連携していくことが重要だと思っています。

JSTの仕事の喜び（やりがい） は何ですか？

まず、実習を経て採用内定が出たとき（目に見える成果）は喜びとともに安心します。もう一つは卒業した生徒が働き続けているとき、自立した生活を送っているのを見ると大きな喜びを感じます。

ナカポツに期待することは？

生徒のサポートを一体となっていていきたいと考えています。また、企業開拓では、一緒に取り組める点も多くあり、タイムリーな情報交換を期待しています。



広島県ナカポツ連絡会を開催しました。

広島県内にある8つのナカポツが一堂に会して研修や情報交換を行う連絡会を7月15日（木）みよしまちづくりセンターで開催しました。

午前中は初任者を対象としたグループワークでナカポツ事業についての理解を深め、午後からは広島労働局などからの情報提供と各ナカポツの状況報告を行いました。

コロナ禍の中で、全員が参加することはできませんでしたが、ナカポツ職員として大切な役割を共有することができました。



お知らせ

令和3年度 第1回 企業担当者研修会

7月12日(月)に三次市福祉保健センターで企業の皆さまを対象として研修会を開催しました。

当日は、ハローワーク三次から「備北圏域における障害者雇用の状況」について情報提供をいただいた後、広島市にある松田病院の松田文雄院長に「発達障害者の雇用と職場定着を進めるために」と題して講演いただきました。

松田先生の話では「多動性のある子どもにじっとしていなさいと言うことは、水の中で息

を止めていなさいというくらいしんどいことである。」「できないことを直すことよりも、できることを伸ばすことが大切」など参考となるお話をたくさん聞くことができました。



就活支援交流会 (講師)田口貴子さん、荒木篤實さん



10月5日(火)就活支援交流会を開催し、庄原ホースヒルにてホースセラピーを体験しました。ホースセラピーとは、乗馬や馬の世話等を通して精神的に安定するとともに、体幹が鍛えられて姿勢が良くなることや運動機能が向上する等が期待できるものであると、田口貴子さんからお話がありました。

また、庄原ホースヒルでの馬の世話を通して、うつ病の症状が改善された荒木篤實さんにもお話を伺いました。えさやり、ブラッシング、厩舎の掃除をする中で馬との信頼関係ができます。「動物は、嫌なことははっきり嫌だと言うし、嘘をつかない」と話しておられたことが印象的でした。

荒木さんは、競走馬だった馬を調教し乗馬がで

きるようにしています。この経験から自分に自信がついたと話しておられました。自分が注ぐ愛情に対し、馬が返してくれるところも魅力のひとつだそうです。

こうした経験を多くの人にも体験してもらいたい、という思いから庄原ホースヒルでは、療育セラピーや触れ合いDAYなど、ホースセラピーの活動をされています。

今回参加された方々から、「馬とのふれあいは珍しい体験で楽しかった」「馬とふれあって癒された」との感想をいただきました。

自然豊かな長閑な場所で貴重な体験でした。



障害者雇用企業等担当者交流会を開催します。

と き：令和3年11月29日(月) 13時30分～15時30分

ところ：三次市福祉保健センター 4階 ふれあいホール

今回は「障害者に対する合理的配慮」について研修します。定員は24名です。

11月22日(月)までに備北ナカポツまでお申し込みください。



センター活動実績 (令和3年10月21日現在)

●就職者数 421件 (H22年4月から累計)

●企業実習 283件 (H22年4月から累計)

職種

就職先：食品製造、製造業、福祉施設、林業病院、日用品販売量販店、農業、建設業etc

編集後記

コロナの緊急事態宣言が9月末で解除され、色々な活動ができるようになりました。行楽の秋ではありませんが、まだまだ油断はできません。我々職員もソーシャルディスタンスに気をつけながら仕事を続けていきたいと思っています。・ ・ ・ 油断大敵! ・ ・ ・

